

## 令和3年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文



### 中学校の部 最優秀賞

## 「今こそ、踏み出そう。」

須賀川市立西袋中学校

3年 大越 由香子

「より良い学校って、具体的にどんなことをしたいと思っている？」

生徒会役員選挙の時、担当の先生にそう問いかけられて、自分が生徒会長としてどんな活動をしたいのか、きちんとした言葉では返答できなかった。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で、次々に自粛される行事や、リモート形式に置き換えられていく生徒会活動を、仕方ないと諦めるだけでいいのか？と感じていた。この状況でこそ、今しかできない生徒会の活動があるはず。それを模索するチャンスを、私達は与えられたのではないのか？

これまでの本校の専門委員会の活動は、多くが昨年度までの内容を踏襲したもので、故この活動に取り組むのか？というところに多くの生徒があまり関心をもっていないように感じていた。様々な寄付や募金活動、ペットボトルキャップの回収等、実は情性で取り組んでいなかったらどうか？しかも寄付したお金の大部分が家の人からもらったのだとしたら、自分達の力で慈善活動に取り組んでいるとは言い難いのではないだろうか。

専門委員の活動の多くはSDGsの理念に結びついている。しかしそのことについて、改めて認識する機会はなく、バラバラに進められている感じがしていた。

私は、まず専門委員の活動が世界の情勢とどのように結びついているのか改めて知り、その上で私達の力だけでも長く取り組んでいける活動を、模索してみたいと思った。

情報を発信していく手段のひとつとして、生徒会が発行している会報を活かそうと考えた。西袋中では7人の役員がそれぞれ記事を担当して持ち寄り、月1回程度発行している。

会報を、もっと関心を持って読んでもらうため、空きスペースに学校クイズや間違い探しなどを載せたり、教室に掲示する分だけカラーで印刷してもらったりして、興味を持ってもらう工夫をしてみた。

そして、SDGsについて役員が各自で調べたことを私達の言葉で生徒会報に掲載してみた。役員会では、今後どんな活動を提案するか、アイデアを出し合ってみた。

その中に、「自分達のロッカーを見直して無駄なものがないのか、考えるのもいいのでは。」という意見があった。

私は、自宅で机の引き出しを開けてみた。お土産でもらったままだったり、使い勝手があまり良くなってしまえばなしたりした、消しゴム6個と筆記用具7本が入っていた。引き出しからあふれるほどの数ではない。しかし、私はこれらの文房具を使う気もなく、処分するつもりでいたのだ。

調べてみると、プラスチック消しゴムは約50%がポリ塩化ビニールという成分でできしており、その成分は石油だ。1個約14gとして6個で42g。ペン類が1本11gとして7本で77g。合わせて119gのプラスチックを無駄に廃棄することになる。もし、同じぐらいの文房具を全国の小中学生約951万人が無駄にしまうと、1141tの

プラスチックを、ただ製造して廃棄する計算になってしまうのだ。私の持っていた文房具の数が全国の平均値という訳ではないが、使わずじまいで捨ててしまい無駄になっていく分だけでも、日本中の小中学生が全員で見直せたら、とても大きな節約に繋がるのではないだろうか。

図書館で調べてみると「エシカルな消費をしよう」という言葉に出会った。エシカルとは、人として守るべき倫理的・道徳的な、と言う意味で、「つくる責任、つかう責任」をもって消費することを通し、SDGs 12番目の、持続可能な消費と生産のパターンを確保する目標達成に繋がるということがわかった。

私達中学生は、まだ生産者ではない。しかし何かを使うときには責任をもって手に入れ、最後まで責任をもって消費できる、小さくても賢い消費者になることはできるはずだ。

私は受験生なので、勉強のときにはやっぱり使い勝手の良い消しゴムやシャープペンを使う。しかし、勉強以外の場面で、引き出しに眠っていた筆記用具を最後まで使い切り、正しく処分しなければと思った。

別の引き出しから、小学校の頃に大好きだったキャラクターの自由帳が、何冊か出てきた。プレゼントでもらったものばかり、使うのがもったいなくて、大事にしまい込んでいたノートだった。今となっては学校にも持っていけない。まだ大切に取っておきたいと思うが、白い紙の縁が少しずつ黄ばんできていた。だからといって、メモ帳や計算用紙として使ってしまうのは忍びなかった。母が、「青森の従妹に誕生日プレゼントを送るから、一緒に送って、使ってもらったら？」と提案してくれた。可愛がっている従妹にあげられるのは嬉しかったが、使えるうちに大切に使うおけば良かったと、少し悔やんだ。

断捨離という言葉をよく聞くが、もういらぬからと何もかもゴミに出してしまうのは、自分の目の前がスッキリしただけのことで、地球規模で見たら、廃棄された資源が右から左に移動されただけに過ぎない。できることなら、自分が責任をもち、工夫して最後まで使い切る方がいいと思う。

以前、使わない文房具や衣料を開発途上国に送って、現地の子供に活用してもらう活動を目にしたことがある。有効活用は確かに良いことだが、全国から不用品を集めて、遠い海外まで大量の輸送エネルギーを使い運ぶのがベストなのか、疑問に感じたことがあった。

船に載せられた大量の衣料や文房具たちは、開発途上の国々で、沢山の資源や労力を消費して生産されたものではなかったのだろうか。私達の『物』への過剰な欲望を満たしたあげく、また多くのエネルギーを消費して送り返すのが、本当の支援なのだろうか。

足元を見ながら、考えた。まだ社会的には何も生産する立場にない私達。経済的な負担を伴う活動はできない。けれど私達には今、学ぶ時間が、仲間と知恵を出し合って考える時間が沢山ある。社会的な立場や利益にとらわれずに、公平な情報を得ることができる。いつか生産する側に立った時、地球環境や倫理的な状況を見極めて行動できる人間になりたい。西中の皆にも、そうなってほしい。

外部との活発な交流活動ができない今こそ、与えられた時間をたっぷり使って、知識を蓄え、持つべき意識をつかみ取っていききたい。

生徒会報を足掛かりに自分達の言葉で情報を投げかけ、西中生の一人ひとりに考えてもらおう。自分の身の丈に合わせて、当たり前になり続けることのできる消費行動を見つけていく。当たり前になり続けることを少しずつ積み上げていく。それを皆で考えながら歩んでいけたら、より良い学校の姿が見えてくるのではないかと、思い始めている。

私達のエシカルな活動は、微かな一歩を踏み出そうとしている。大人が眺えてくれた靴も何も履いていない、裸足の小さな一歩だ。

## 参考文献

CUC 千葉商科大学 MIRAI Times [https://www.cuc.ac.jp/om\\_miraitimes/](https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/)

日本ビニル工業会 [www.vinyl-ass.gr.jp/answer.html](http://www.vinyl-ass.gr.jp/answer.html)

ESG/SDGs キーワード130 (著者: 江夏あかね、西山賢吾)

あなたもできる! 環境生活のススメ (著者: 箕輪弥生)

身近でできるSDGs エシカル消費 ③エシカル消費をやってみよう! (著者: 三輪昭子)

2030年までに私たちにできることを考えよう! 世界を変えるSDGs (監修: 小林亮)